

九

19



丙
昭和七年三月十日
四〇〇

立案 昭和七年三月八日

決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁



宮内事務官



故海軍中將佐藤鐵太郎任階追陞件

昭和七年三月七日

昭和七年三月四日裁可三月四日達
臺帳記入三月七日官報報告済

宮内省

裏面白紙

故海軍中將佐藤鐵太郎位階追陞ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十七年三月四日

内閣總理大臣東條英機



内閣

67

31

澄第一〇七號

案	起
昭和十七年三月六日	裁可
決定	昭和十七年三月六日施行
昭和十七年三月六日	

内閣總理大臣

山

内閣書記官長

山

内閣書記官

故海軍中將從三位佐藤鐵太郎ハ別紙
海軍大臣奏請ノ通功績顯著ナル者ニ候
處本月四日死去ノ趣ニ付特旨ヲ以テ左ノ通
位階追陞ノ件上奏相成然ルヘシ

故海軍中將從三位佐藤鐵太郎

内閣

特旨ヲ以テ位一級追陞セラル

從三位 佐藤鐵太郎

敘正三位

三月四日付

昭和十七年三月六日
裁可 昭和十七年三月六日 施行
決定 昭和 年 月 日

内閣書記官長 上
内閣書記官

將從三位佐藤鐵太郎ハ別紙
奏請ノ通功績顯著ナル者ニ候
死去ノ趣ニ付特旨ヲ以テ左ノ通
件上奏相成然ルヘシ
軍中將從三位佐藤鐵太郎

内閣

位一級追陞セラル
從三位佐藤鐵太郎

三月四日付

本件ハ特ニ急ヲ要シ候ニ付至急
發令方御取計相成度 内閣

68

海軍
一〇七

(美濃全葉十行算紙)

敘正三位

海軍中將從三位勳一等功三級

佐藤 鐵太郎

右者明治二十二年海軍少尉ニ任官以來身ヲ軍職ニ奉
ズルコト實ニ三十有四年ノ久シキニ亘リ其ノ間常備
艦隊參謀、第二艦隊參謀、海軍大學校教官、宗谷艦
長、阿蘇艦長、海軍大學校教頭、第一艦隊參謀長、
海軍軍令部次長、海軍大學校長、舞鶴鎮守府司令長
官等ノ要職ニ歷任シ終始一貫精勵克ク其ノ任ヲ盡シ
功績頗ル顯著ナリ

殊ニ明治二十七八年戰役ノ際ハ赤城航海長トシテ艦

海軍

長戰死ノ後ヲ承ケ艦ノ操縦ニ任ジ敵ノ堅艦鎮遠定遠
等ニ對シ勇戰奮闘巧ニ敵ノ包圍ヲ脱シ以テ克ク其ノ
任ヲ全フスルヲ得セシメタリ

明治三十七八年戰役ノ際ハ第二艦隊先任參謀トシテ
軍機ニ參與シ計畫進言其ノ宜シキニ適ヒ第一艦隊ト
能ク協同連繫ヲ保持シテ或ハ旅順港外ニ或ハ蔚山沖
ニ日本海ニ轉戰シ主力艦隊タル實力ヲ發揮シテ空前
ノ大捷ヲ博シ戰果ヲ全フセシムルニ大ニ力アリタル
者ナリ

右戰役後ハ海軍大學校教頭次デ同校長トシテ專ラ育

英ノ任ニ當リ幾多ノ英才ヲ出シテ我ガ海軍ニ貢獻ス
ル處亦至大ナリ若シ夫レ戰史ノ研鑽ニ至リテハ篤學
熱誠慧眼紙背ニ徹シテ他人ノ追從ヲ許サザル本官獨
特ノ壇場ト爲ス其ノ著ス所ニ帝國國防史論アリ海洋
國家國防ノ指鍼トシテ我國唯一無二ノモノニシテ後
進之ガ爲ニ啓發セラレ今次大東亞戰爭ニ於ケル赫々
タル戰果モ本論ニ負フ處甚大ナルモノアリ
本官ハ又豫テ精神教育方面ニ造詣深ク退職後モ海軍
ヨリ巡講ヲ依囑セラレ東奔西走以テ思想善導軍紀風
紀ノ振肅ニ寄與スル所尠カラズ殊ニ曾テ數回ニ亘リ

海軍

東宮殿下ニ在セシ聖上陛下ニ戰史ノ御講演ヲ申上奉
リ又昭和九年以來貴族院議員トシテ政界ニ活躍スル
等其ノ國家ニ效セル功績ハ實ニ偉大ナルモノ有之候
處不幸病ニ罹リ本月 四 日薨去致候ニ付テハ特別
ノ御詮議ヲ以テ頭書ノ通位一級追陞セラレ度
謹テ 奏ス

昭和十七年 三月 六 日

海軍大臣 嶋田 繁太郎



功 績 書

貴族院議員從三位勳一等 佐 藤 鐵太郎

右本月四日薨去ノ處同議員ハ明治二十二年六月海軍少尉ニ任官以來累進シテ大正五年十二月海軍中將ニ任セラレ大正十二年三月豫備役仰付ラルル迄浪速艦航海長、宮古、嚴島、出雲、朝日各艦ノ副長、宗谷、龍田兩艦ノ艦長、及海軍大學教官、海軍大學校長、第一艦隊參謀長、舞鶴鎮守府司令長官、海軍軍令部次長等ノ要職ニ在リ昭和九年七月三日貴族院議員ニ任セラレ在任中ハ請願委員、決算委員及競馬法中改正法律案、愛國航空獎券發行ニ關スル法律案等ノ各特別委員ニ擧ケラレ深重審議良ク協贊ノ任ヲ盡セルノ効

貴 族 院

定ニ顯著ナルヲ確任ス。

美濃全書十三卷附紙(花崎納)

履 歴 書

山 形 縣

海軍中將從三位勳一等功三級

佐 藤 鐵 太 郎

慶應二年七月十三日生

年 月 日

記

事

應 名

明治二十二年 六月 七日

任海軍少尉

内 閣

同 二十五年十一月十二日

勳令九十六號少尉ハ高等官八等ト被定

十二月廿一日

任海軍大尉

内 閣

同 二十七年 七月廿五日

敘高等官七等

同

同 二十八年 九月廿七日

清國ト開戦
陸敘高等官六等

内 閣

十一月十八日

明治廿七八年戦役ノ功ニ依リ功五級金
鷗勳章竝ニ年金三百圓及勳六等瑞寶章

海 軍

同 三十一年 六月廿八日

任海軍少佐

賞勳局

同 三十五年 十月 六日

任海軍中佐

内 閣

同 三十六年 十月廿七日

補常備艦隊參謀

海軍省

十二月廿八日

補第二艦隊參謀

同

同 三十七年 二月 六日

佐世保發艦日露戦役ニ從事

賞勳局

同 三十八年 五月三十日

敘勳四等授瑞寶章

賞勳局

六月十四日

補朝日艦長

海軍省

十二月二十日

補龍田艦長

同

同 三十九年 四月 一日

明治卅七八年戦役ノ功ニ依リ功三級金
鷗勳章竝ニ年金七百圓及勳三等旭日中

賞勳局

級章ヲ授ケ賜フ

賞勳局

同 四十年 四月廿二日

補海軍大學校教官

海軍省

裏面白紙

74

海軍

同		同	十七年	三月	四日
同		同	九年	七月	三日
同		同	六年	七月	十三日
同		同	貴族院令第一條第四號ニ依リ貴族院議員ニ任ス	退役	
同		同	貴族院	海軍省	

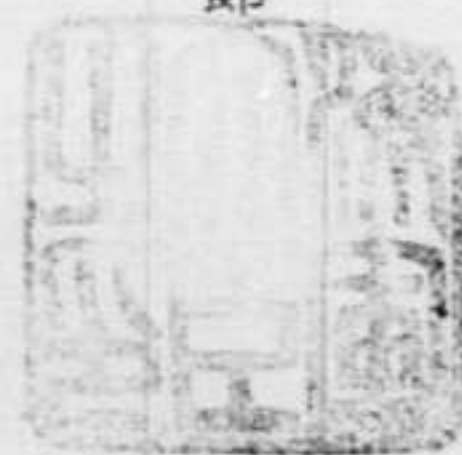
美濃牛葉十三行野紙（花崎納）

裏面白紙

海秘人第二一七號

昭和十七年三月六日

海軍大臣 嶋田 繁太郎



内閣總理大臣 東條 英機 殿

故海軍中將佐藤鐵太郎敍位ノ件別紙上奏書進達ス

(終)

(美濃全葉十行露紙)

75

裏面白紙

貴族院 七二

昭和十七年三月五日

貴族院書記官長 小林 次郎

内閣總理大臣 東 條 英 機 殿

上 申

貴族院議員從三位勳一等 佐 藤 鐵太郎

右者昨四日薨去致候ニ付テハ此ノ際特ニ位勳陞敘ノ恩典ニ浴セ
シメラルル様御詮議相成度別紙履歷書竝功績書相添此段上申
候也

追テ海軍省ヨリモ功績上申ノ筈ニ有之候

裏面白紙

丙發第四〇號

一 改之海軍中將佐之職太印
右特旨ヲ以テ敍位相成候ニ付位記竝辭令及回送候
條傳達方御取計有之度候也

昭和丁亥三月十日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

以海軍大臣

宮内省

二號紙